

津の空襲

B29爆撃機による本土空襲が大都市から地方都市へと拡大していくなか、昭和20年（1945）3月12日、津市に初めて爆弾が投下されました。

その後、爆弾投下や機銃掃射によって市内各地で多くの人々が犠牲になりました。特に旧津市の市街地は、6月から7月にかけて3度の激しい空襲を受け、焼夷弾投下によって市街地中心部の約73パーセントが焼失する大きな被害を受けました。

月日	時間	主な空襲・被害	地図	文献
昭和20年 3月12日	午前3時頃	B29爆撃機が津市の賛崎・阿漕の海岸に爆弾投下	A	①
	昼間	小型機が津市で機銃掃射		①
3月19日	午前4時頃 (文献②では午前2時頃)	津市安東地区の水田に爆弾5発投下、死者1名	B	①
4月7日	午前11時半頃	B29爆撃機が津市神戸地区に爆弾投下、死者26名、負傷者32名 (文献②では死者31名、負傷者多数)	C	①
5月14日	午前10時頃	B29爆撃機の編隊を日本の戦闘機が迎撃、B29の1機が伊勢湾に墜落		③
6月26日	午前9時29分	B29爆撃機が津市の橋南地区、橋北地区の軍需工場を爆撃、死者約600人 (文献④では死者174名、傷者190名、罹災戸数495)	D	①
	午前9時半頃	B29爆撃機に日本の戦闘機飛燕が体当たり攻撃し、飛燕は大三村(現在の白山町二本木)周辺、B29は倭村(現在の白山町上ノ村)に墜落	E E'	③
	昼間	零戦がP51戦闘機に撃墜され七栗村(現在の庄田町)に墜落	F	⑤
7月16日	昼間	P51戦闘機の機銃掃射で近畿日本鉄道伊勢線(旧伊勢電気鉄道)の乗客など死者4名		③
	昼間	P51戦闘機が伊勢湾上空で日本の戦闘機の攻撃を受けて長野村(現在の美里町桂畑)に墜落		③
7月24日	午前10時27分	B29爆撃機が津市の市街地を爆撃、死者1,200～1,300名 (文献④では死者947名、傷者471名、罹災戸数3,168)	G	①
	昼間	B29爆撃機が八知村谷中(現在の美杉町八知)に爆弾1発投下、死者7名	H	③
7月27日	午後8時半頃	空襲予告のビラ(伝单)がまかれる		⑥
7月28日	午後11時47分	B29爆撃機が津市の市街地を爆撃、M74焼夷弾が入ったE48集束弾を投下、死者500～600人(文献④では死者344名、傷者246名、行方不明38、罹災戸数10,000)	I	①

これらのほかに、久居町の御殿山(現在の久居西鷹跡町 高通公園付近)、大三村の大三神社(現在の白山町二本木)、波瀬村(現在の一志町波瀬)などで爆弾投下や機銃掃射がありました。

(地図: J K)

A 津市の贅崎・阿漕 (3月12日)

B 29爆撃機が海岸に爆弾投下

B 津市安東地区 (3月19日)

水田に爆弾5発投下

C 津市神戸地区 (4月7日)

B 29爆撃機が爆弾投下

D 津市橋南地区・橋北地区 (6月26日)

B 29爆撃機が軍需工場を爆撃

E 大三村(現在の白山町二本木)周辺 (6月26日)B 29爆撃機に日本の戦闘機飛燕が
体当たり攻撃し、飛燕が墜落**E' 倭村(現在の白山町上ノ村) (6月26日)**B 29爆撃機に日本の戦闘機飛燕が
体当たり攻撃し、B 29が墜落**F 七栗村(現在の庄田町) (6月26日)**

零戦がP 51戦闘機に撃墜され墜落

G 津市の市街地 (7月24日)

B 29爆撃機が爆撃

H 八知村谷中(現在の美杉町八知)

B 29爆撃機が爆弾1発投下 (7月24日)



主な空襲・被害

文 献

①『津の戦災 - 手記・記録・資料 -』

津平和のための戦争実行委員会 平成7年(1995)

②『戦後40周年 津の戦災の姿と発展 昭和20年…昭和40年』

津市教育委員会 昭和61年(1986)

③『三重の戦争遺跡(増補改訂版)』

三重県歴史教育者協議会 つむぎ出版 平成18年(2006)

④『三重県史 資料編 近代2 政治・行政II』

付録「戦災地図(津市)」三重県 昭和63年(1988)

⑤「久居の零戦」『三重ふるさと新聞』

雲井保夫 平成14年(2002)1月17日号

⑥『米軍資料日本空襲の全容 マリアナ基地 B 29部隊』

小山仁示 東方出版 平成17年(1995)